

2014(H26) 年 11 月 No.17

自主防災の基本

減災だより

被害をできるだけ小さくする情報

自助：自らの〔命・家族・資産〕は自ら守る
近助：防災は〔近所の助け合い〕が大切
共助：自主防災は〔B 自治会〕が自主防災隊

地域防災力強化に資する情報誌

発行：B 地区茅ヶ崎自治会 自主防災隊 (防災支援隊)

26 年度 小出地区防災訓練 <被害情報の収集 と 被害情報の伝達>

訓練で想定する
地震

H26 年 11 月 09 日 06 時 36 分 関東地方を中心に
震度 6 強の地震が発生。天候は晴れ、南西の風、風力 2 程度。

訓練の概要

Q: 「被害情報の収集と被害情報の伝達」とは、
どのような訓練ですか?

A: まず、被害情報を想定すること。そして、
その想定した被害に対して対処することが
ポイントです。

① 対処するとは、例えば、軽傷者が出たら手
当をする。火が出たら皆で消す。119へ

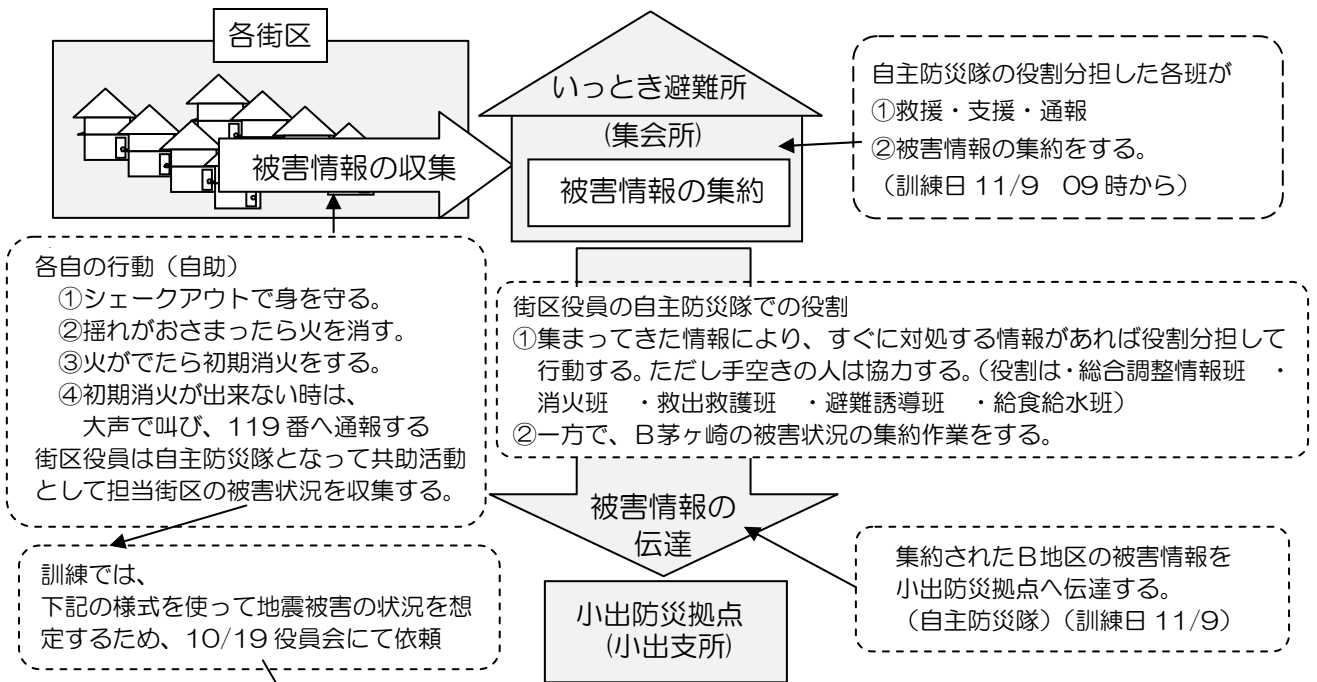
通報する。などです。

② そして、各街区から集めた被害情報を B 地区
全体として集約します。(自主防災隊の役割)

③ 集約された被害情報を小出防災拠点(支所)
へ伝達します。(自主防災隊の役割)

④ この時、小出地区の被害情報を入手し、持ち
帰って、B 地区の皆さんへ報告します。

(自主防災隊の役割)



各自の行動 (自助)

- ① シェイクアウトで身を守る。
- ② 揺れがおさまったら火を消す。
- ③ 火がでたら初期消火をする。
- ④ 初期消火が出来ない時は、
大声で叫び、119 番へ通報する
街区役員は自主防災隊となって共助活動
として担当街区の被害状況を収集する。

訓練では、
下記の様式を使って地震被害の状況を想
定するため、10/19 役員会にて依頼

被害状況の情報を伝達する伝達用様式

- | | |
|------------------------------|------|
| 1、(A) 自主防災組織・(B) 一時避難所情報等連絡票 | 別紙—5 |
| 2、家屋等被害状況等聴取・連絡票 | 別紙—6 |
| 3、道路等被害状況等聴取・連絡票 | 別紙—7 |
| 4、火災その他被害状況等聴取・連絡票 | 別紙—8 |
| 5、家具の移動・転倒・落下・ガラス飛散など | 別紙—9 |

この情報を小出防災拠点
へ伝達する。
(B 地区で対処したこと
も記述する)

小出防災拠点への伝達は
しない。B 地区で纏める

防災支援隊活動の指針となる資料

茅ヶ崎市の「自主防災組織活動の手引」 ～地域防災力の強化のために～ (2013 年 12 月)	藤沢市の湘南大庭地区 防災計画 地震対策編 2013 年版	地震へのそなえ! 産業技術総合研究所 監修 加藤碩一	避難所 運営マニュアル 茅ヶ崎市/藤沢市
---	-------------------------------------	----------------------------------	----------------------------

地震だ！ その時、どうするか？

地震発生 ≡ ⇒ 停止したら ≡

C、地震停止直後のその後の対処・・・ その時どうしますか？

(地震直後の落ちついた行動が、あなたの命を守り、二次被害を防ぐ)

「減災だより」H26年9月No.16で詳細説明

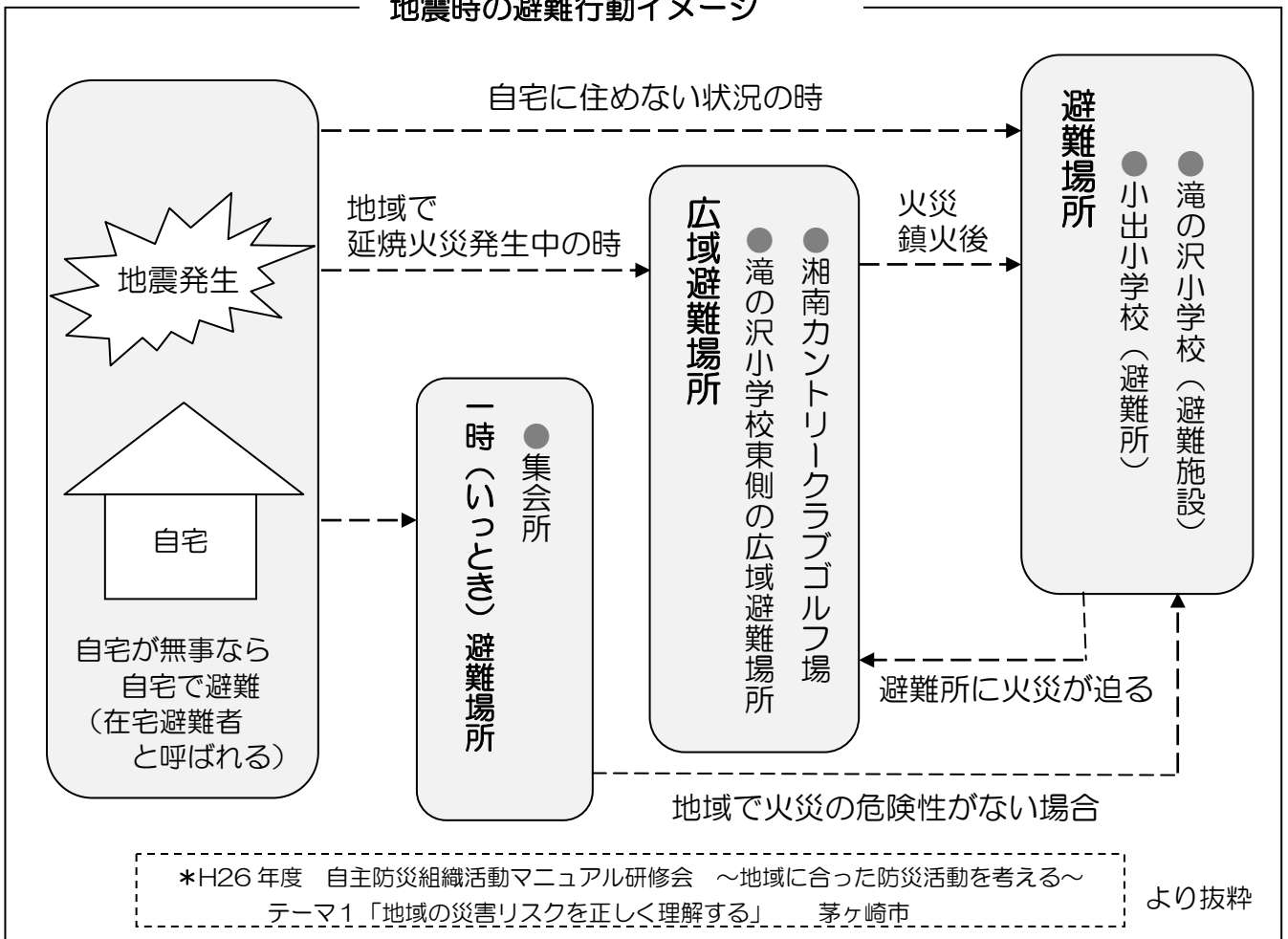
- C1、ガラスの破片が飛び散っている場合は、家のなかでもスリッパ、靴などを履く。
- C2、念のため、電気のブレーカー、ガス栓を切る。
- C3、余震を想定して、対処する。
- C4、すぐに避難が必要な状況とは → 「避難」は命を守る最後の砦
- C5、避難する時 ----->

D、避難する時、心掛けておくこと

避難する場合

- ①地震の被害で、家に住める状況にない時
- ②火災の発生で、延焼拡大から身を守る時

地震時の避難行動イメージ



(参考資料) ★「なかなかできない地震への備え！」 監修 加藤碩一 発行制作 アドヴィク
★「震災から自分と家族を守るために普段から備えておこう」 公明党 防災ブックレット ★「減災行動のススメ」 横浜市消防局 ★「災害から身を守る知恵袋」 九都市県合同防災訓練連絡部会 ★「震災対策ポケットマニュアル」 日経新聞出版社 ★「これ一冊でできるわが家の防災マニュアル」 国崎信江